

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告【令和2年度報告】

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

| 交付対象事業の名称 | 事業内容 | 年度 | 総事業費 | 交付金額 | 本事業における重要業績評価指標(KPI) | | | 本事業終了後における実績値 | 実績値を踏まえた事業の効果について | |
|------------------------|--|----|------------|-----------|----------------------|----------|-----------|---------------|-------------------|--|
| | | | 単位:円 | 単位:円 | 指標 | 事業開始前 | 目標値(R2年度) | 実績値(R2年度) | 効果 | 実績に対する評価 今後の方針 |
| 1 地域商社×佐渡次世代農業ビジョン実践事業 | <p>【佐渡次世代農業ビジョン実践事業】</p> <p>◆農業次世代人材確保事業 次世代の佐渡農業を担う人材の確保・育成を関係機関と連携して継続して行った。農業体験を通じて佐渡の農業を知ってもらうためのパンフレットを作成・配布した。</p> <p>◆園芸産地再生・担い手育成実証委託事業 園芸産地における荒廃農地の再生・生産実証事業を継続・拡充して行った。複数の園芸品目を組み合わせた大規模経営を佐渡の次世代農業モデルとする実証事業を農業法人等へ委託して行った。</p> <p>【地域商社事業】</p> <p>◆佐渡版地域商社の機能構築費 2年目に構築した佐渡版地域商社の機能の推進に向け、消費者ニーズを捉えた生産調整を実践事業に反映させるとともに、島内外の販路拡大に努めた。</p> <p>◆島内循環型地域商社機能構築 島内での生産量を底上げし、地産地消率を上げるとともに、島外への販売につながるため、モデル的な地域を設定し、生産、出荷、集荷、配送までの体制がつながるよう運用を実証した。 ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により一部事業を行えなかったことから、昨今のEC需要の高まりを鑑み、新たにECサイトを構築し、多くのインターネット利用者に向けた販売展開した。</p> <p>◆園芸産地育成事業補助金 島内循環型地域商社機能構築の底上げを図るため、園芸導入・拡大に向けて挑戦する農業者の生産から販売までを一貫してサポートした。また、国県事業から除外される農家を対象として支援。ただし、対象者の選定について、広く公募し地域の取組を吸い上げ、審査により決定した。</p> <p>◆地産地消事業 生産拡大の出口戦略として、地産地消による島内消費の拡大を推進した。</p> | R2 | 18,048,200 | 9,024,100 | 主要農産物の販売額 | 6,213百万円 | 6,500百万円 | 6,065百万円 | 地方創生に効果があった | <p>(KPI未達成理由)</p> <p>KPI①については、園芸野菜全般において夏の異常高温、乾燥による焼けや枯れのほか、高温が推移したことによる生育の早まりなどにより計画的に出荷できなかった。出荷においても規格品に至らないなど、著しく品質が低下し、出荷できなかったため販売額につながらなかった。</p> <p>KPI②については、KPI①の要因のほか、佐渡市地産地消推進会議での市場側からの意見として、「絶対的な佐渡産品の量の不足と、生産技術の未熟さ、高齢化、担い手の不足」など、学校給食として使用できるだけの品質、量が確保できず使用率が下がった。</p> <p>KPI③については、生産量、品質は伸びず、人材確保につながらなかった。</p> <p>(実績を踏まえた事業の見直し)</p> <p>平成30年度から令和2年度まで3カ年事業を実施。 今回の事業では、生産、消費、販売を一体的に取組んだが、絶対的な佐渡産品の量の不足、生産技術の未熟さ、高齢化、担い手不足が要因となり、量、品質は伸びず、人材確保につながらなかった。 見えてきた課題を踏まえ、令和3年度より、他産地との差別化販売に取り組むため、共通した栽培手法を意識した園芸作物のブランド化を目指す。園芸作物の共通となるブランド軸を立ち上げ、統一した栽培技術、品質規格に取組む。</p> |
| | | | | | 学校給食での佐渡産野菜利用率 | 28.8% | 40.0% | 17.2% | | |
| | | | | | 地域商社及び農業法人等における雇用者数 | 6人 | 10人 | 8人 | | |

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告【令和2年度報告】

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

| 交付対象事業の名称 | 事業内容 | 年度 | 総事業費 | 交付金額 | 本事業における重要業績評価指標(KPI) | | | | 本事業終了後における実績値 | 実績値を踏まえた事業の効果について | |
|---------------------|--|----|------------|------------|-----------------------|----------|-----------|-----------|---------------|---|--|
| | | | 単位:円 | 単位:円 | 指標 | 事業開始前 | 目標値(R2年度) | 実績値(R2年度) | 効果 | 実績に対する評価 今後の方針 | |
| 2 佐渡戦略産品ブランド化プロジェクト | <p>【佐渡米品質向上プロジェクト】 1等米比率向上、販路拡大に伴う、ブランド力の向上による販売量及び農家所得の向上を実現。2年目は農業者の意識改革を図るため、サポーターの生産する米の高付加価値化販売戦略に取組んだ。</p> <p>【ブランドカアップのための販売戦略】 「朱鷺と暮らす郷づくり認証米」の販売力強化及び多様な販売網を構築するとともに、佐渡米のブランド及び販売戦略、販売促進を農協と協働により再構築。また、販売産品である果樹(柿・レクチェなど)の販売量、単価アップを目的に新たな販路開拓に向けて取組んだ。 特に購買意欲につながる島の魅力(食の文化、歴史、背景)もPR発信できるようプロモーションを行った。</p> <p>【企業支援対策事業】 佐渡産品の情報発信、消費者等の動向確認のほか、海外への商談会、海外販路につながる商談会等への出展にかかる経費を一部補助し、更なる販売網販路拡大を図る。</p> | R2 | 29,251,048 | 14,625,524 | 輸出量(米・柿及び加工柿) | 0.4t | 10.0t | 0.25t | 地方創生に効果があった | <p>(KPI未達成理由) KPI①については、柿を輸出するための冷凍・真空技術が確立されたが、高温の影響をうけ着色の遅れが発生し集荷時期、出荷時期が例年より遅れた。また、長雨により果実の汚損が見られ集荷量の減少が影響し輸出につながらなかった。 KPI②については、猛暑被害からの改善は見られたものの、長雨の影響により稲が倒伏したため目標に達しなかった。 KPI④については、外出自粛等の影響により販売店ではなく、通販等での購入に切り替わった影響もあり取組店舗が減少。</p> <p>(実績を踏まえた事業の見直し) 佐渡米未来プロジェクトにおいて、異常気象の影響(高温)が品質低下の大きな原因とし、気象変動の影響を最小限に抑えるための「基本技術の徹底」や「良質な稲の育成(健苗育成)」と並行し、「土づくり」を実施することが重要であるとの意見を踏まえ、引き続きSPAD導入、土づくり資材補助を実施する。 米穀店からの要望が高まっている色彩選別機済米の区分出荷・区分販売を実施できるよう、大規模農家への色彩選別機導入を推進するため、対象を個人農家から大規模農家、組織へ切り替える。 ブランドカアップのための販売戦略については、販売拡大プロモーションに係る経費を見直す。国内において多岐にわたる販売チャンネルの確保に努めるため、卸売先への訪問等で佐渡の取組をPRし、首都圏、関西方面での広告・宣伝活動により販売先との結びつき強化に努める。 企業支援対策事業では、飽和状態である国内市場から海外市場をターゲットにする商談会等に向けての支援を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大によって海外向け商談会等が開催されなかったため、事業の実施が出来なかった。コロナ禍であるが、引き続き、販路拡大の可能性のある海外市場への佐渡産品のアプローチを推進する。</p> | |
| | | | | | コシヒカリ1等米比率 | 84.0% | 88.0% | 73.9% | | | |
| | | | | | JA重点作物(米・柿・干し柿) | 4,978百万円 | 4,998百万円 | 5,628百万円 | | | |
| | | | | | 「朱鷺と暮らす郷づくり認証米」の販売店舗数 | 322店舗 | 334店舗 | 281店舗 | | | |

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告【令和2年度報告】

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

| 交付対象事業の名称 | 事業内容 | 年度 | 総事業費 | 交付金額 | 本事業における重要業績評価指標(KPI) | | | | 本事業終了後における実績値 | 実績値を踏まえた事業の効果について | |
|---|---|----|-------------|------------|----------------------|----------|-----------|-----------|---------------|---|--|
| | | | 単位:円 | 単位:円 | 指標 | 事業開始前 | 目標値(R2年度) | 実績値(R2年度) | 効果 | 実績に対する評価 今後の方針 | |
| 3 新たな観光資源開拓×佐渡版DMO 戦略的観光地域づくりプロジェクト | <p>【観光地域づくり推進事業】 佐渡版DMOが中心となり、多様な関係者と連携し、中長期的な視点による観光地経営を進めていく。特に、さどまる倶楽部会員拡大が重要であることから、「佐渡」の認知度向上とさどまる倶楽部会員への誘導を積極的に推進。</p> <p>【外国人旅行者誘致事業】 長期滞在型観光モデル造成の目的のために、外国人旅行者等を対象とした事業を行うとともに、県内自治体との連携による旅行会社、商談会等へのセールを行う予定であった。 しなしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、ターゲットとしていた東南アジアからの入国規制により、商談会やスポーツイベントを中止せざるを得なくなった。 ただし、新型コロナウイルス感染症収束後、観光業のV字回復に向け、「新たな生活様式に対応した受入環境整備事業」を実施。観光地において最重要視される「安心・安全」の仕組み構築により、観光施設側の受入水準と地域ブランド向上を図った。</p> | R2 | 109,005,035 | 54,502,517 | さどまる倶楽部会員が佐渡を訪れた数 | 1,500人 | 4,000人 | 4,502人 | 地方創生に効果があった | <p>(KPI未達成理由) KPI②、③については、新型コロナウイルス感染症による外出自粛が影響し、観光客入込数が減少したことに伴い未達成。</p> <p>(実績を踏まえた事業の見直し) 新型コロナウイルス感染症収束後、リスタートを素早く切れるよう、事業所への支援を手厚くしてはどうかとの意見を踏まえ、非接触型会計システム及びオンライン予約システム等のデジタル化に対応する「営業力強化」に向けた取組みを実施する。 観光振興や地域活性化を目指し、観光資源「巡礼」や「癒し」をテーマに周遊・滞在型の新たなルートや旅行商品を造成し、首都圏や関西、国外では台湾や香港からの誘客促進につながるよう事業を新たに展開する。 外国人旅行者の広域観光ニーズへの対応や長期滞在・回遊性の向上促進等を図るため、観光客が佐渡を来訪する機会の創出を目的とする「新しい旅行スタイル」の実現を目指す。</p> | |
| | | | | | 外国人延べ宿泊数 | 17,000人泊 | 20,000人泊 | 1,128人泊 | | | |
| | | | | | 観光客1人当たり平均宿泊数 | 1.89% | 1.93% | 1.65% | | | |
| | | | | | 関係人口(さどまる倶楽部会員数) | 16,000人 | 35,000人 | 37,635人 | | | |

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告【令和2年度報告】

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

| 交付対象事業の名称 | 事業内容 | 年度 | 総事業費 | 交付金額 | 本事業における重要業績評価指標(KPI) | | | 本事業終了後における実績値 | 実績値を踏まえた事業の効果について | |
|------------------------------|--|----|------------|------------|------------------------|----------|-----------|---------------|---|-------------------|
| | | | 単位:円 | 単位:円 | 指標 | 事業開始前 | 目標値(R2年度) | 実績値(R2年度) | 効果 | 実績に対する評価 今後の方針 |
| 4 歴史と文化が薫り 自然と人が共生できる美しい島づくり | <p>【佐渡体験交流事業】 姉妹都市や関連の深い市町村の小中学生を対象として自然体験等の促進を図る「交流バス事業」並びに、通年観光の推進及び観光地域づくりに資するものとして、冬期間における旅行ニーズや島内消費動向、満足度、再来訪以降の調査を目的に、首都圏等から冬ならではの佐渡の味覚、歴史、文化を満喫できる旅行商品を造成し、アンケート調査等を実施予定であった。 しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、都道府県をまたいでの移動自粛状況等、見通しがたないことから一部事業を中止。 ただし、新型コロナウイルス感染症収束後、観光業のV字回復に向け、「新たな生活様式に対応した受入環境整備事業」を実施。修学旅行等の再開を見据えた受入準備等を整え、事業を複合的に実施。</p> <p>【歴史・伝統文化等体験施設関係事務費】 ジオパーク拠点施設や佐渡版DMO、佐渡文化財団との連携を図り、佐渡の歴史や文化に関する実物資料の展示解説、佐渡金銀山の選鉱作業体験や無名異焼等の伝統技巧実習体験を提供したほか、新型コロナウイルス感染症の発生により、観光客の来館が期待できない状況を踏まえ、島民向けに体験ワークショップを主としたイベントを開催するなど、佐渡の文化資源の魅力発信に努めた。</p> <p>【ジオパーク推進事業】 ジオパーク拠点施設を活用し、ジオパーク活動をさらに発展させるため、市民講座、ガイド養成講座について開催回数、内容充実を図り、市民への普及啓発を図った。</p> <p>【佐渡ジオパーク推進協議会活動事業】 ジオパークは世界文化遺産や世界農業遺産を包括する「風呂敷」であると考えており、効果的にアピール、推進するため佐渡ジオパーク推進協議会を中心に、「佐渡らしさ」が見え、島の特色ある自然を活かしながら、持続可能な地域社会の実現に向け、「大地と地質資産の保全」「学習・教育への活用」「ジオツーリズムの推進」に取組んだ。特に、旧ジオポイントの分類分けを行い、すでに見直しし設定した活用ジオサイト7箇所と併せ、さらに新カ</p> | R2 | 68,044,924 | 34,022,462 | 市営観光・文化施設入場者 | 248,984人 | 269,100人 | 108,380人 | <p>地方創生に効果があった</p> <p>(KPI未達成理由) KPI①、②については、新型コロナウイルス感染症の外出自粛等の影響により未達成となった。</p> <p>(実績を踏まえた事業の見直し) 佐渡は魅力が多岐にわたり、まとめるのが非常に難しいため、佐渡の歴史や地学的な面について面白いと感じてもらえるコンテンツに集中投資し、遊びを中心とした体験に手法を変更してはどうかとの意見を踏まえ、新たな体験・参加型ツアー造成を行い、市営観光施設でのワークショップ、企画展の事業展開の充実を図るよう見直す。 佐渡市ジオパーク推進協議会が実施する教育旅行・ジオツーリズムの内容充実を図るため、季節限定ガイド業務委託やガイド研修等においてオンライン開催が可能となる環境整備を行う。</p> | |
| | | | | | 3ガイド(金銀山・トキ・ジオパーク)利用者数 | 67,083人 | 69,443人 | 43,384人 | | |

地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告【令和2年度報告】

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

| 交付対象事業の名称 | 事業内容 | 年度 | 総事業費 | 交付金額 | 本事業における重要業績評価指標(KPI) | | | 本事業終了後における実績値 | 実績値を踏まえた事業の効果について | |
|-----------|---|----|------|-------|----------------------|-------|-----------|---------------|-------------------|-------------------|
| | | | 単位:円 | 単位:円 | 指標 | 事業開始前 | 目標値(R2年度) | 実績値(R2年度) | 効果 | 実績に対する評価 今後の方針 |
| | <p>活用ジオサイトを設定し「大地と人と地域」がつながる環境を整備。また、新たに設定したサイトを見て回るモデルコースを設定し、「見て、聞いて、触れて、味わって、交流する」新たな体験・学習型観光の振興を推進することで、より多くの来場者につながるよう事業を実施。特に2019年教育旅行として設定したモデルコースを2020年より佐渡ジオパーク推進協議会が推進母体となり受入を実施。</p> <p>【佐渡金銀山ガイダンス施設管理運営事業】 2019年4月にオープンした佐渡金銀山ガイダンス施設は、佐渡金銀山の価値をわかりやすく紹介するとともに、来訪者を現地へと誘導するための情報発信の拠点施設とした。また、ガイドツアーの受付を行うガイドステーションや佐渡金銀山関連の講演会や研修など講堂を会場に実施。</p> <p>【生物多様性戦略推進事業】 2021年の10周年記念事業に向けて、調整・準備を行い、機運醸成を図った。</p> | | | レポート率 | 34.0% | 41.0% | 41.4% | | | |